森づくり×後継者育成

人のつながりが里山の新たな可能性を育む

NPO 法人よこはま里山研究所

横浜

【団体の概要】

1980年代以降に活発化していった里山保全の広がりの中で、横浜市内でも多くの市民団体が立ち上がっていった。市民活動が抗議型から提案型へと変わっていく中で、1996年に市内の10団体がネットワークを組み、行政と協働しながら事業を進める『よこはまの森フォーラム』を結成。助成金を活用して中間支援を続けていたが、助成期間を過ぎると次第に活動は停滞していった。そうした状況で、このネットワークを活かし、里山を保全しながら持続可能なライフスタイルを提案する新たな団体として、2000年に『よこはま里山研究所NORA』(以下、NORA)を設立。その翌年の2001年にNPOの法人格を取得した。

現在NORAでは活動を〈ヤマ〉、〈ノラ〉、〈ムラ〉、〈ハレ〉、〈イキモノ〉の5つに分類し、おもに横浜市郊外に点在する野外フィールドと、都市部(横浜市南区)にある事務所兼フリースペース「はまどま」(横浜の土間)を中心に、一般市民が参加できる様々なプロジェクトを実施している。

【主な活動の紹介】

〈ヤマ〉

『NORAの山仕事』は、横浜市と協定を組んで川井緑地(5・3ha)の森に手を入れ、発生した木材や下草などを資源として活用する月2回の定例プロジェクト。間伐・除伐、丸太の玉切り、搬出、薪割りなどを行なうガッツリ系と、森の散策や小枝集め、ハンモック、BBQなど森の中でゆったり過ごす和み系の2つのタイプから選び活動できる。

また、横浜市内の人手が必要な緑地にボランティア活動希望者を派遣し、下草刈りや間伐材の搬出などの軽作業を行なう『よこはま里山レンジャーズ』も実施している。

〈ノラ〉

丹沢・大山の東麓に、森や木が好きな人、農作業や野菜が好きな人、ものづくりや音楽が好きな人などが集まり、交流しながら森の手入れや農作業を楽しむ『森と畑と音楽と』を実施。2017年からは田んぼづくりにも挑戦している。

〈ムラ〉

『はまどまプロジェクト』では、フリースペース「はまどま」を「街なかの里山の入口」と位置づけ、里山とかかわる暮らしにつながる様々なプログラムを実施。竹林保全によって伐った竹を活用する「もったいないから竹細工」、神奈川県産の野菜料理を食べる「神奈川野菜の食事会」、季節の素材を使って味噌や梅酒などを作る「はまどまで土間仕事」、会員提案型の企画で、薬膳料理やスイーツを作ったりする「はまどま手習い塾」などを実施している。

〈ハレ〉

年に数回程度、非日常的に開催するイベント。『地モノ市』は、伊勢佐木町商店街のイベントに出展するかたちで、地元の野菜を販売し、生産者の声や田畑の様子を伝える。ほかに、地域の行事・お祭りへの参加もある。

〈イキモノ〉

『旬の里山探索』は、雑木林に囲まれた谷戸に田んぼや畑が広がり、様々な生き物に出会える横浜北部の新治市民の森にて、バードウォッチングや野草の観察などを行う。

まつむら　まさはる
松村　正治 さん
NPO法人よこはま里山研究所 理事長
(恵泉女学園大学人間社会学部准教授)

若者の森づくり

入口の入り方から考える

森林ボランティア団体の高齢化や固定化など"後継者がいない"という課題は、2000年代から挙げられてきたテーマであるが、「原因を特定することが大切」とNORAの現理事長である松村さんは話す。

NORAでは、この課題解決を図るために、『認定NPO法人自然環境復元協会』と協働して、『よこはま里山レンジャーズ』という活動を実施している。この仕組みは、ボランティアに参加したい人がまず「レンジャー」として登録申請し、登録完了後にメールで出動要請(活動の案内)が届く。レンジャー名簿の管理や登録者への連絡は自然環境復元協会が行い、NORAは実際に作業を行う現場の活動団体との調整、現場での指導などのコーディネートを行う。

レンジャーズは揃いのベスト(ビブス)を身に纏い、作業内容は週末の午前中2〜3時間で行える軽作業(除草や木材の搬出など)に限定。そのまま残りたい人はお昼ご飯を食べていっても良いし、ボランティア仲間とコミュニケーションを取る機会にするなど、なるべく活動の自由度を高めて、参加の敷居を下げていると言う。

一見、ボランティア活動に参加希望を出して活動に参加するという普通の流れのように見えるが、ポイントは個人で団体の活動にいきなり飛び込んでいくのではなく、コーディネーターのもとで同じ思いを持つボランティアがまとまって参加できる点だ。既に出来上がっている活動や団体に個人で入っていくのは勇気がいるし、それが年配の方であれば尚更である。

このように団体とボランティアの間にワンクッションを置くことによって、活動に参加しやすくなるとともに、団体にとっても各個人に個別に対応しなくてもよいので受け入れしやすくなると言う。まずは"入り方"から工夫することが重要なのだ。

よこはま里山レンジャーズの様子

成長できる場づくり

『よこはま里山レンジャーズ』の活動は主に軽作業が中心となるため、参加する際の敷居を下げることはできるが、一方でそれ以上の関わりを強く求めないため、"体験止まり"になってしまうという面が出てくると言う。

NORAとしても、ボランティア参加者からスタッフや現場の作業リーダーとして活躍できる人材を育成する必要性は感じており、2年程前から『緑の募金』や企業からの寄付金を活用し、レンジャーとしての体験では物足りないと思う若手をターゲットにした『若手リーダー育成講座』を開催している。2016年の開催時には20代〜40代の13名の参加者を集めて、リーダー概論、道具の

若手リーダー育成講座の様子